

## 国語科学習指導案

日 時：平成 29 年 1 月 14 日(土) 第 2 校時

10:40-11:30 (50 分)

対 象：東京学芸大学附属世田谷中学校 第 2 学年 C 組 40 名

授業者：東京学芸大学附属世田谷中学校 渡邊 裕

場 所：東京学芸大学附属世田谷中学校 1 階 多目的教室

### 1. 単元名

「〇〇な本棚一見える『文脈』／見えない『文脈』」

### 2. 単元のねらい

- 1) 個々の本を結びつけ、本棚を作ることを通し、“文脈性”について考える。
- 2) 「意味」を自身がどのように「作りだした」のかということをもとに、“視点”ということを考える。
- 3) 「名前」の提示と交流をもとに、視点を軸として“場”や“自己と他者”について目を向ける。
- 4) 結びつきを意識し、作った本棚に添える〈ショートエッセイ〉を書くことで、媒体の特徴を踏まえ“意図を伝える”ことに取り組む。

### 3. 単元設定の理由

#### 1) 単元観

この単元のねらいとなるのは、「つながりに着目することで、視点の働きについて考える」とともに、「あるものに着目したことにより“なにかが見えなくなっている”ことに気づき、ものの見方や考え方を広げる」ことである。

このような「文脈」を意識した授業づくりのねらいは、既有知識の顕在化と「情報」の結びつきから思考の深化を目指すということもできる。文脈を意識することで、「個」の理解を「大きな流れ」の中で捉え直し、相対化することによって、獲得した知識の汎用性を高めることに結びつくと考えられる。

日常生活の中でも、それ単独で意味づけていくことや意味づけられる“モノ”は無いはずである。個々に重ねてきた経験を含め、なにかしらの中に分類し、判断しているだろう。本単元では、これまで個々に意味付けているであろう本について、本棚という並びをつくり、自身の軸足を顕在化することに取り組んでいきたい。

本棚をつくるということは、連続性の中に「意味」を作り出し、表現することである。今回の授業提案で、1年生が「文脈を〈紡ぐ〉(つくりだす)」段階だとすれば、2年生はそこから発展し、「個」と「総体」という点から視野を広げていく。さらにそれを表現・交流することを通じ、連続性の中に異なる「意味」が生成されることについて考える「文脈を〈見出す〉」段階を目標とする。

そこから、「視点」や「場」、「自己と他者」ということに目を向け、表現や伝達場面で「他者」を意識することや共有の基盤へ意識を向けることにつなげたい。

#### 2) 生徒観

##### ① これまでの学習との関わりから [使用教科書：三省堂「現代の国語」]

第 2 学年の「読むこと」の学習では、連続性と焦点化ということに目を向けながら読みを深めていくことを目標に取り組んでいる。これまでに、タイトルや象徴性、ことばの連なりから補強されるイメージということについて考えてきた。

##### a) 詩の学習をもとに【4月：「名づけられた葉」】

- 構成を踏まえ、テキストの特徴を捉える → 「込められた思い」を導く結びつきを考える【根拠】
- 表現や技法についての理解を深め、効果や「限られた言葉」という点に着目して考える【特性】
- 「名」／タイトルという点から、その役割や効果について自身の考えを深めていく【象徴性】

b) 文学教材から【5月「小さな手袋」／9月「走れメロス」】

- 事柄の連なりや関係性に目を向け、「つくられるイメージ」について目を向ける【連想・伏線】
- 物語の表現上の特徴に注目し、どのような事柄が焦点化されるのか考える【視点・時間軸】
- タイトルと「言葉の選択」という点から、その役割や効果について自身の考えを深めていく【象徴性】

また各単元についても、連続性やつながりということも意識している。例えば読書活動を橋渡しとして、「タイトル」で選択した本を読み、「タイトル」と内容の関係を考えたうえで、「こんな人に読んでほしい」というテーマでのプレゼンテーションを行っている。また10月には「動物園でできること」（タイトルの果たす役割と批評）ということにも注目していった。

いずれの単元も、読みの深まりを促す「視点」の活用と言語化ということを活用し、取り組んでいる。

② 生徒の実態から

2年生でクラス替えがあり、1学期は互いに様子を伺う様子をみせていたが、2学期になり、いくつかの学校行事に共に取り組んだことで、互いの性格を把握し、「自分たちらしさ」を意識するようになってきた。

学習への取り組みは前向きな生徒が多く、学年の初めからも、ペアやグループでの取り組みでは積極的な姿勢や互いに協力していく様子が見られた。一方で、共に過ごす時間が長くなってきた分、ある一定の段階で良しとしてしまう姿や固定されたグループで、「言わなくても通じる」ということに頼る様子も見られてきた。


このような時期に、「文脈を“見出す”」という自らの思いを世界に乗せていくこと、「自分がどのように意味を見出していくのか目を向け表現すること」や「とらえかたの違いを体験すること」は、自分自身を振り返るとともに、互いの理解を深めることや関係を築いていくことの一つの手がかりとなるものであると考える。そのうえで、「自分を理解してもらうために」行動していくことや、個々の差に目を向けながら、自分の考えを定めたいという物事を広く捉えていくことにつなげていきたい。

4. 単元の指導計画（6時間）

次・時	学習内容・学習活動	指導上の留意点、参考事項
0	<input type="checkbox"/> 読書活動 <input type="checkbox"/> 読書記録の整理・蓄積 <input type="checkbox"/> 「小さいころ『好きだった本』」の聞き取り	●自分の記憶にあるよりも前に向き合っていた本の聞き取りを行ってくる。【家庭科との連動】 ●他の本棚を見る際には本の「タイトル」から考えていくことになるが、これまでの学習経験と結びつけ活用していきたい。
<b>第一次 それぞれの「本棚」をつくり、「名前」をつける（連続性の中に「意味」をつくりだす）</b>		
第一時  12月	<input type="checkbox"/> 〈本棚づくり〉の提示 ◆1 「本棚」とは？*2（本棚の可能性）  （課題内容・条件の確認） ◆2 各自が本を選び、並べ*本棚をつくる ◆3 それぞれの本棚に「名前」を付ける →『おかしな本棚』の目次*4を例に挙げる  ◆4 本棚のサイズはA4幅	◇1 「本棚」について、「読み終えた本を置いておくもの」や、たんに「本を置いておくもの」という感覚を持つ生徒が多いと予想される。しかし、本単元では「置く」ということから生まれる「意味」を考えていく。きっかけとして、『おかしな本棚』、『書店の本棚 本の気配』、『本の声聴け』の一節を引用し、本棚の可能性を考えてみる。  ◇2,3 『おかしな本棚』の目次項目を提示しながら「どのような本が並んでいるのか」を想像してみる →自分がそこにどのようなつながりを見出したのかイメージを喚起するような本棚の「名前」を考える ◇4 サイズについては、具体的にイメージしやすく、手に入りやすいものにする。最大値の制約を設けることで、「『情報』の取捨選択／精選」という取り組みにつなげたい。特に多くの読書経験を持つ生徒ほど、「選

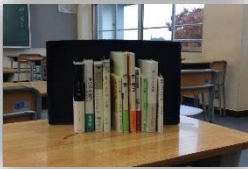
	<p>□本の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆5 本を考え、収集について各自確認する</li> <li>◆6 本の候補を書き出す（プリント）</li> </ul>	<p>扱」ということが「文脈性」という点との結びつきを深めると考えられる。</p> <p>◇5 収集</p> <p>実物を手に取る機会となる。図書館や対象となる本の周辺にあるものについても目を向けることを期待したい。</p>
--	---	--


**第二次 「名前」の提示を通し、他者との共通点・相違点を見出し、「文脈」に目を向ける**

<p>第二時・第三時</p> <p>1月</p>	<p>□本棚の作成と「名前」の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆7 「本棚」づくり 本の特徴をもとに、本棚をつくる</li> <li>◆8 本棚の写真を撮る</li> </ul>  <p style="text-align: center;">例：「本が語る本棚」</p>	<p>◇7 「〇〇な本棚」という形で本棚の「名前」を考える。手がとまったときには『おかしな本棚』の目次を参考にする。</p> <p>◇7 複数の並びを試し、その印象の違いに着目する。</p> <p>◇8 本を焦点化した写真を撮影して提出 →タブレット使用し、直接データを印刷できるプリンターで印刷していく</p>
--------------------------	---	--

<p>第四時</p> <p>本時</p>	<p>□互いの本棚の「名前」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆9 壁面にあるグループのメンバーの本棚の写真を見て、 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「本棚の名前」+なぜそう考えたのか</span> を付箋に記入し、貼り付ける</li> </ul> <p>□自身の「文脈」を掘り起こす (グループ全員のものに付箋が着いた段階で)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆10 貼られた付箋を確認し、どのようにとらえられたかを確認する</li> <li>◆11 それぞれの本棚の「名前」を公開</li> <li>◆12 自分がなぜそう「名づけた」のか解説する</li> </ul> <p>□他の人がどのような「文脈」に埋め込んで理解したのかを考える*5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆13 「名前」をもとに「視点」について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆9 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 4人グループ</li> <li>✓ 教室壁面に本棚の写真を掲示</li> <li>✓ 写真の上にテーマを見えない状態で貼り付けておく</li> <li>✓ 付箋にグループの人の「テーマ+理由」を記入し貼り付けていく</li> </ul> </li> </ul> <p>※教室前面に全員分の「本棚の名前」を提示 ※グループの人の分は本棚の写真を配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「視点」と文脈、「場」について目を向ける ⇒ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一つのもものが様々に姿を変え、捉えられる</span> *同じ本棚が「異なる名」で捉えられる *同じ本が異なる本棚の中に収められ、異なる「意味」をつくりだしている。 ◎異なる名については必ず実例が挙げると考えられる。 ——部の状況が一つでも出てくると、「文脈」についてより具体化して深く考えることが期待出来る。</li> </ul>
----------------------	--	--

**第三次 「文脈」と「視点」を媒体の特徴と結びつけることで活用しながら、〈ショートエッセイ〉を書く**

<p>第五時</p>	<p>□写真と文を活用し、「意図」を伝わりやすく表現する（文：エッセイ この段階では提示のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆14 もう一つの名を定める</li> <li>◆15 本棚の「名前」にもう一度着目し、その意図を補強する背景を入れた「本棚」の写真を撮る。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">例1：「本が語る本棚」 ⇔ 「『内側』を見せる本棚」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「場」と「文脈」の関わり ⇒同一のもものが置かれる場所で印象を変えることを確認する。</li> </ul> <p>◇14 「何を」の部分自身が把握できるような「もう一つの名」を考える ※はじめにつけた「名前」を変えるのではない</p> <p>◇15 「名前」の理由が補強される（本棚が特徴付けられる場所）で写真を撮る。</p> <p>◇16 <u>写真+エッセイ</u>で“伝える”ことを確認 いずれも“全てを伝える”ことはできない。 それぞれの特性を踏まえ、また相互に補いながら、自分の本棚を他者に伝わる形に価値付けていく。 ※エッセイについては400～600字程度を想定</p>
------------	--	--

	 <p>例2:「本が語る本棚」 ⇔ 「自らを語る本棚」</p> <p>◆16 自分の本棚に関するエッセイを書くことを確認する ⇒<b>読書課題</b>【図書館連携】 エッセイを複数編読み、特徴と感想を記録する</p>	<p>→生徒への提示は〈ショートエッセイ〉という表現を用いる。エッセイとしては“短い”ものとはいえないが、本棚と同様上限を意識することでの取捨選択を促すためこの形をとりたい。</p> <p>※表現方法の特徴から、“全てを言い尽くす”ことはできない。この段階で、それぞれの媒体の持つ特徴を活用することを取り入れたい。これは「文脈」を意識することと結びつくものであると考える。</p> <p>→12月に東京学芸大学（中村純子研究室）の大学院生と研究協力し、メディアリテラシーの視点による授業を行った。ここで得た学びを応用することを促したい。</p> <p>◇16 図書館にエッセイのコーナーを設置 上級生がエッセイを読み、書く授業を行った際のブックリストや新潮文庫『私の本棚』を活用する。</p>
第六時	<p>□写真に合わせた〈ショートエッセイ〉を書く</p> <p>◆17 エッセイに関する記録をもとにエッセイについて、また表現の工夫について考える。</p> <p>◆18 ショートエッセイの作成</p>	<p>●「エッセイを書くための工夫」から実際に文章を練り上げる。</p> <p>●学年全員分をまとめ一冊の本をつくる →<b>題名は改めて募る</b></p>

## 5. 本時の指導（第4時／全6時間）

### 1) 本時のねらい

- 全体像を示す「名前」からつながりを見出すことで、埋め込まれた「文脈」について目を向ける。
- 同じものが異なるものとして捉えられることから、意味づけの多様性と選択について考える。
- 自分と他者の共通点・相違点を考えることを通じ、選択されなかった「情報」の存在に気づき、ものの見方や考え方を広げる。

### 2) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5	1) 授業の流れの確認	1) グループでの取り組み方を確認する。	* 教室前面に「本棚の名前」を提示 ※ グループの分は写真を配布
展開 15	発問 1 互いの本棚の「名前」を考えよう 2) つながりに目を向ける	「 <u>本棚の名前</u> 」+なぜそう考えたのか を付箋に書き、グループのメンバーの本棚の写真に貼る	* つながりを連想し、名前をイメージする。適宜名前の一覧を参考にする。 * 理由をしっかりと記入させる。
展開 20	発問 2 それぞれの名前は—なぜそう考えた？ 3) 自身の「文脈」を掘り起こす	3)-1 貼られた付箋を確認し、どのようにとらえられたかを確認する 3)-2 それぞれの本棚の「名前」を公開し、自分がなぜそう名づけたのか解説する	* 付箋に記入されたことを踏まえながら解説につなげる。 * 同じ本棚が「異なる名」で捉えられた理由に目を向け考えるようになるがす。
まとめ 5	4) 名前の違いと視点の差を結びつける	4) 名前の差がどのように生じたのか考える。	* 自分との共通点・相違点から視点に結びつけ、考察を促す。